

令和元年度 教員地域貢献活動支援事業(協働型) 成果報告書

課題名	Aozora Factoryを通じた地域づくりと臨海部産業団地の魅力発信	
研究者	代表教員氏名	国際商学部 准教授 芦澤 美智子
	事業ユニットの構成(代表者除く)	国際教養学部 准教授 中西 正彦
提案者	金沢区市政推進課	
課題	<p>横浜市金沢臨海部産業団地(通称「LINKAI横浜金沢」)は、製造業を中心に1,000社以上が事業を営む一大産業集積拠点である。ここは「横浜市六大事業」の1つとして1970年代に整備が進められた地域だが、完成から約30年が経過し、大規模工場の転出、労働力不足、事業承継問題などの諸問題に直面して、地域活性化策が求められている。</p>	
課題解決の方法	<p>地域活性化のためには「イノベーション(価値)」の創出と、地域魅力の再認識・発信が必要で、イノベーションの創出及び魅力の発信には、地域の多様な人々が集うプラットフォームを構築し「つながり」をつくる必要があると考える。</p> <p>本学教員である芦澤は、平成28年にはLINKAI版キッサニア(13のワークショップ)「Aozora Factory」を実施し、650名の集客を得て各方面から高い評価を得た。その後毎年秋に継続開催されている。</p> <p>さらに平成29年度と平成30年度は地域の代表的商業施設である三井アウトレットパーク横浜ベイサイドで開催した。また、平成30年度には新たな取組として、テクニカルショーでの単独ブース出展をした。</p> <p>これら一連の活動が評価され、横浜市経済局が中心となって進めている「金沢臨海部活性化プラン」具体化の一部を担う主体としての期待が高まっている。</p> <p>組織としても、平成30年度にNPO法人が設立され、このことにより、今後も継続して地域に根付く活動をする土台が作られた。今後もAozora Factoryは、イノベーション創出プラットフォームとして、また、地域魅力の再認識発信の場として発展が期待されていると言える。</p> <p>そこで平成31年度は、下記それぞれにおいて「Aozora Factory」を開催する。</p>	
	<p>【金沢区との協定書に基づく取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成31年10月にPIAフェスタ併設イベントとして「Aozora Factory」を実施。中西ゼミは10月開催時に「まちづくりワークショップ」を出展し、産学官民の交流を促進する役割を担う。</li> <li>Aozora Factoryにおける企画・運営から派生して、イノベーション促進のために、域外企業との連携を模索する。特に、最新のテクノロジーのシーズを使つての新しい製品・サービスの開発を後押しするよう、芦澤ゼミが中心となってワークショップを開催していく。</li> </ul> <p>【NPO法人としての活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>継続的に魅力発信を行える場を構築するため、平成31年度中に、常設拠点を置くことを目指して活動する。</li> <li>組織体制の強化のため、繁忙期に事務局スタッフを置くなど新しい取組を進める。</li> </ul>	
研究実績報告(スケジュールと内容・成果)	<p>＜スケジュール・内容＞</p> <p>5月:キックオフミーティング@産業振興センター</p> <p>6月～10月:Aozora Factory準備。特に、製品/サービス開発ワークショップの準備は、半年かけて産学連携により継続的に実施。</p> <p>10月9日:台風19号予報のためにAozora Factoryの中止決定</p> <p>(10月12日:Aozora Factory@PIAフェスタ実施予定日)</p> <p>11月7日:令和元年度中のAozora Factoryの開催について中止を決定</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>月1回「運営会議」を開催し、Aozora Factoryの開催準備を進めた。毎回約20名の参加があり、産学官のコミュニケーションを深めることができた。</li> <li>Aozora Factoryは台風19号のために中止となったが、広報は積極的に進め、Aozora Factoryの名前や内容、LINKAI横浜金沢の名前と内容を広めることに貢献できた。</li> <li>今年度より都築地域のMade In Tsuzukiの経営者との連携を深め、市内中小企業製造業の横の繋がりを作ることができた。</li> </ul>	
連携機関(提案者以外)	横浜市経済局、三井不動産株式会社、日本発条株式会社、藤森工業株式会社、NTT東日本 等	
得られた効果及び自己評価	<p>【金沢区との協定書に基づく取組】</p> <p>＜得られた効果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Aozora Factoryは台風19号のために中止となったが、広報は積極的に進め、Aozora Factoryの名前や内容、LINKAI横浜金沢の名前と内容を広めることに貢献できた。</li> </ul> <p>＜自己評価＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Aozora Factoryは台風19号のために中止となったが、それまでの準備プロセスにおいて、産学官の連携が深まった。</li> <li>例年以上の広報がなされ、Aozora FactoryやLINKAI横浜金沢の発信に効果があったと思われる。</li> <li>台風15号により被害が大きかったLINKAIに対する「応援イベント」として位置づけを打ち出すことや、台風19号の予報により3日前に中止を周知するなど、難しい意思決定をチームで協力して迅速にできた。NPOのマネジメントがしっかりできたことがチームの自信に繋がったと考えている。</li> </ul> <p>【NPO法人としての活動】</p> <p>＜得られた効果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>NPOとしての組織体制を強化し、Aozora Factory準備段階におけるチームでの連携・意思決定体制を整えた。その結果、学生および社会人の負担をおさえ、継続的運営ができる体制ができつつある。</li> </ul> <p>＜自己評価＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>台風15号により被害が大きかったLINKAIに対する「応援イベント」として位置づけを打ち出すことや、台風19号の予報により3日前に中止を周知するなど、難しい意思決定をチームで協力して迅速にできた。NPOのマネジメントがしっかりできたことがチームの自信に繋がったと考えている。＜再掲＞</li> </ul>	

今後の課題と展開					
<p>【NPO法人としての今後の課題と展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製品/サービス開発ワークショップの開催、常設拠点化については、複数の選択肢を模索したものの、明確な道筋は出せていない。今後の課題と認識している。</li> <li>・新しいビジネスアイデアの創出やビジネスコンテストへの出場などについては、Aozora Factory中止の影響もあり、実現できなかった。</li> <li>・大規模イベント型の運営を行う難しさについて継続的に議論し、来年度はNPO法人として大規模イベントの実施は目指さないことを決めた。その代わりに、2020年度は三井アウトレットパーク内での小規模イベントを継続的に行う方向で、三井不動産との議論を進めている(2020年4月の三井アウトレットパーク横浜ベイサイドのリニューアルオープンにあたり、先方とNPO法人間で協定を締結する予定)。</li> <li>・学生の大規模イベント型への関与の難しさについて議論し、横浜市立大学芦澤ゼミの関与を一旦中止することを決めた。「学」との連携については再考しつつ、2019年11月時点では見通しが立っておらず、今後の課題と認識している。</li> </ul>					
研究発表(投稿準備中、投稿中、発表予定を含む)					
<p>&lt;学会&gt;  2019年10月20日、組織学会企画セッションにて、Aozora Factoryを事例として紹介  吉永崇史・芦澤美智子・渡邊万里子「組織開発とコミュニティ開発の実践・研究の交差点を探る」2020年度組織学会年次大会  &lt;発表&gt;  10月2日プレスリリース(金沢区と共同)「産官学連携ものづくり体験型イベント「Aozora Facotry」10月12日(土)金沢産業振興センターグラウンドで開催！」(10月9日開催中止決定)  &lt;報道機関等による紹介&gt;  ・新聞掲載:神奈川新聞(10月11日)、東京新聞(10月11日) ※台風により、イベント中止の記事  ・その他:タウンニュース(10月3日)、広報よこはま(10月号)</p>					
研究成果による知的財産権の出願・取得状況					
知的財産権の名称	発明者名	権利者名	知的財産権の種類、番号	出願年月日(和暦)	取得年月日(和暦)
該当なし					